お知らせ

◆新年会のお知らせ

恒例の新年懇親会を左記により開催します。年内に改めてハガキにてご連絡をしますが、ぜひご予定ください。

日　時　２０１２年１月28日（土）
　　12時30分～15時
会　場　東京・一ツ橋、如水会館

◆遠藤文学の関連図書の御案内

星野正道著
『崩壊の時代に射す光
――ヨブとミツが立つ世界の中で』
オリエンス宗教研究所

定　価　本体１４００円＋税
内　容　聖書のヨブ記と、遠藤周作『わたしが・棄てた・女』を題材に、さまざまな困難に出合う現代人への希望のメッセージ。心に刻まれる悲しみの痕跡を通して神は人々に語りかける、という遠藤文学のテーマが、分かりやすく説かれる。著者はカトリック司祭で白百合女子大学教授。本書は10月20日に刊行された。

◆遠藤文学講座のお知らせ

「遠藤周作『キリストの誕生』を読む」

日　時　11月12日、12月10日、1月7日、2月11日、3月10日
　　3時20分～4時50分
　　（日時は変更する場合がありますので、申込みの際にご確認ください）
場　所　幼きイエス会
　　（四谷駅麹町口前）
講　師　山根道公
受講料　1回２０００円（学生半額）
申込み　風編集室
　　TEL FAX ０８６-２２７-５６６５
　　✉ kazehensyusitu@yahoo.co.jp
内　容　遠藤周作の生涯とも照らし合わせながら、『キリストの誕生』を読み解き、弱い弟子たちを変えていく永遠の同伴者キリストを探っていきます。

◆講演「遠藤周作『深い河』における生と死」

日　時　12月3日（土）
　　1時30分～3時30分
場　所　ノートルダム清心女子大学
　　（ＪＲ岡山駅西口徒歩10分）
講　師　山根道公
　　当日聴講費…１０００円
問合せ　ノートルダム清心女子大学公開講座
　　TEL ０８６-２５２-２７５１

祝　加賀乙彦会長が文化功労者に

10月25日、政府は今年度の文化勲章授章者を発表し、併わせて15名の文化功労者を発表しましたが、そのお一人に加賀乙彦会長が選ばれました。学術、芸術、芸能などの各分野から選ばれておりますが、小説家では加賀会長お一人です。文化功労者になられたということは、文化勲章候補者ということです。会員一同心からお祝い申し上げると共に、皆で喜び合いたいと思います。遠藤周作先生も、文化功労者となり、文化勲章を受章しました。今度は加賀会長の受章を、会員一同で期待いたしたいと思います。なお加賀会長は『永遠の都』（全７巻）に続く『雲の都』（全４巻）の最終稿を書き終えたということです。「新潮」に掲載された後、来年には書籍化され、自伝的大河小説が完結します。何と25年にわたって書き継がれたものです。来年1月28日の新年会では、併せて、皆で加賀会長を囲んでお祝いしたいと思います。

◆「周作クラブ」会員募集

遠藤文学ファンはもちろん、これから読んでみようという若い人も大歓迎です。下記の加藤宗哉事務所内「周作クラブ」までおハガキかＦＡＸを下されば、折返し会費振込み用紙をお送りします。

◆編集後記

▼10月25日、この会報の編集中に、嬉しいニュースが飛び込んできました。加賀乙彦会長が文化功労者に選ばれた、というニュースです。上記しましたが、会員一同で喜びたいと思います。

▼北杜夫さん逝去のニュースは、その翌日のことでした。「どくとるマンボウ」シリーズで人気を得、斎藤家について書いた『楡家の人びと』は、重厚な小説として知られます。因みに北さんの本名は斎藤宗吉、斎藤茂吉の次男で、長男は斎藤茂太です。ユーモアと生真面目さが同居した、現代を代表する作家の一人で、遠藤周作先生とは家族ぐるみの付き合いでした。加賀会長ともご懇意でした。慎しんでご冥福をお祈りします。

▼9月29日「周作忌」の冒頭、司会をしている私の携帯が二度も鳴りました。一瞬遠藤先生の「いたずら」かなという思いが頭をよぎりましたが、ポケットに手を入れスイッチを切りました。その20分後、何と遠藤先生が息せきって会場に現れ、ビックリ。実は遠藤龍之介さんでした。携帯も龍之介さんからでした。（劔）

「周作クラブ」第45号
２０１１年11月発行
■発行人　加賀　乙彦
■編集人　高橋千劔破
■副編集人　金子　コウ
■この号の編集者
岡田厚美、一田佳希、大原雄、近藤恭弘、太原正裕（BP）
■発行所　東京都世田谷区上馬4-29-17
加藤宗哉事務所内「周作クラブ」
TEL080-1097-1979
FAX03-3421-1521
●次回の会報発行は2月の予定です。